



ラリー・ウィリアムズのパートナー なりた・ひろゆきと

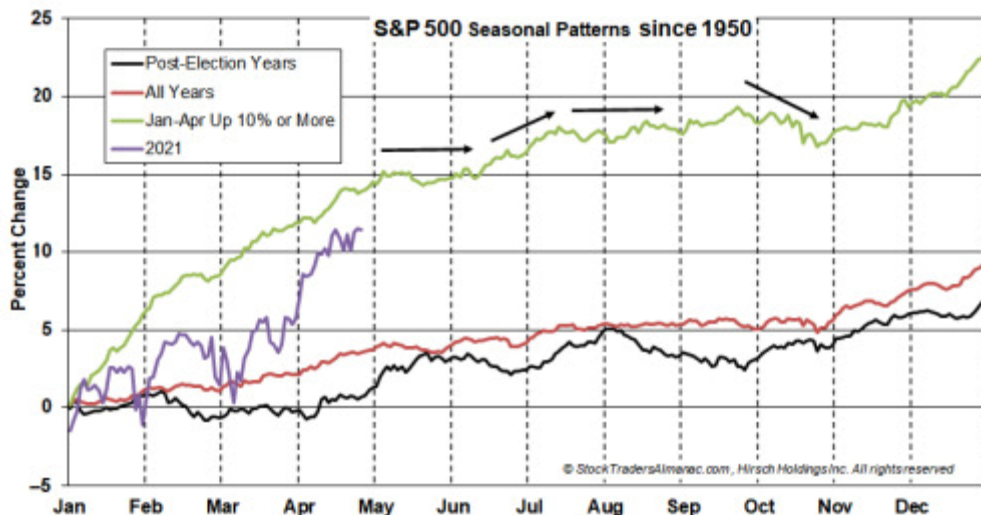
米アノマリーの第一人者、エール・ハーシュのあとを継いだ ジェフリー・A・ハーシュによる
主要市場を分析した最新相場予測レポート！

▼▼▼ご購入の詳細はこちら▼▼▼

<http://trs.jp/p/5962/2011411200000>

2021年4月28日

S&P 500 Up Over 10% First Four Months – Preceded Flat May to late-October
S&P500 が最初の 4 か月で 10%以上の上昇したとき——5 月から 10 月後半までフラット



1950年以降のS&P500のシーズナルパターン

昨日の引け時点で、S&P 500 の年初来の上昇率は+11.5%となった。この上昇が4月末まで続くと仮定する。S&P 500 が年初来の4ヶ月間に10%以上の上昇を記録するのは、1950年以來、17回目となる。1月から4月にかけての最高記録は1975年の+27.3%の上昇(S&P 500は1974年10月3日に48.2%下落した弱気相場の後、新たな強気相場の初期段階にあった)。

次のベストな年は、1987年(ほとんどの人はその年の後半に起こったことを覚えているだろう)、最近では2019年(最初から最後まで堅調な年)となる。

上のチャートでは、1月から4月末までにS&P500が10%以上上昇した過去17回、すべての年をプロットした。また、「全年」、「大統領選挙翌年」、そして昨日までの2021年を比較している。過去17回では、5月上旬に上昇が止まり、6月中旬から7月中旬にかけてさらに上昇した後、9月下旬に再び失速し、10月下旬にはさらに弱くなる傾向がある。平均すると、10月下旬になると、それまでの3か月間の上昇分は失われ、5月初旬以降のS&P500の平均上昇率は約+2.5%となっている。5月に逃げ出す必要はないが、5月初旬から10月下旬にかけての歴史的に控えめな上昇を考えると、このまま相場に居残るのは得策ではないようだ。